取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、
ご使用の前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。

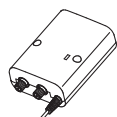
DIGITAL

470〜710MHz（UHF帯：ch.13〜52）対応

DIGICATCH Flat Power

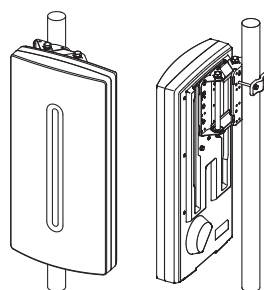
地上デジタル放送用平面アンテナ

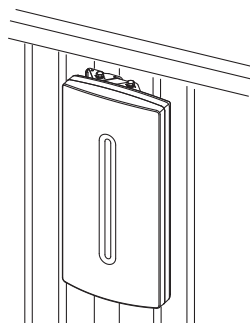
［ブースター内蔵、水平・垂直偏波共用、出力75Ω（F形座）仕様］

UAD1900

電源部（付属）

この製品は付属の電源部とセットで使用します。

マストや角柱に取り付けるとき

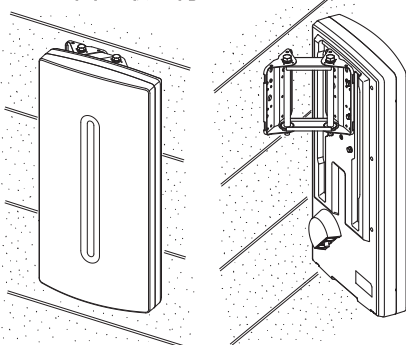
φ22〜49㎜のマスト、□30〜45㎜の角柱に取り付ける場合

イラストはマストで代用していますが、角柱の場合も同様に取り付けてください。

ベランダに取り付けるとき

取付に必要なもの

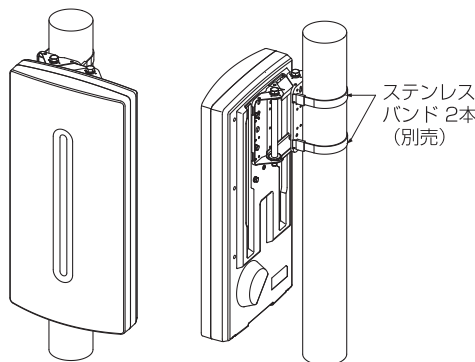
- 同軸ケーブル
- F形接栓
- ケーブル加工用カッター等
- (+)ドライバー
- 落下防止用ひも

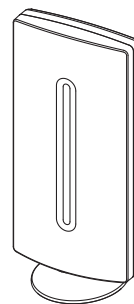
◆必要に応じて準備するもの

- 壁面取付用の木ネジやコンクリートアンカー
- テレビ用CS/BS-IF・UHF分波器

壁面に取り付けるとき

(注)壁面取付時には壁面に穴が開きます。取付前に設置したい場所で地上デジタル放送が全チャンネル受信できることをテレビなどで確認してください。

ステンレスバンドで取り付けるとき

φ50mm以上のマストや自営柱などに取り付ける場合

スタンドで使用するとき

屋内に設置する場合（水平偏波受信のみ）

製品の特長

- 25素子相当の地デジ平面アンテナにブースターを内蔵し、システム性能約60%UP。※
- CS/BS-IFとUHF混合回路を内蔵し、地上デジタル放送とBS・110度CSデジタル放送を1本の同軸ケーブルで伝送できます。
- 水平、垂直の両偏波受信対応で、ケーブル接続・引き回しが容易な背面出力端子を採用。壁面取付時でも水平偏波受信時の方位角可動範囲は左右各60度で、電波到来方向への最適な角度で設置できます。
- 出力モニター端子を装備していますので、設置・配線後の方向調整が容易です。
- 取付金具は、壁面だけでなくマスト（φ22〜49mm）や角柱（30×30mm〜45×45mm）、市販のステンレスバンドにも対応した多用途設計で、アンテナの突出をおさえた設置が可能です。
- 水平偏波受信、垂直偏波受信、屋外、屋内のそれぞれの設置に対応しています。（付属スタンドは水平偏波設置専用です。）
- 樹脂ケースで覆われたアンテナ部には直接の積雪がなく、性能劣化が少ない構造です。
- 先端加工不要で抜け落ち防止の防水キャップを採用し、取り付けが容易です。
- 付属の電源部は余裕ある電源容量で、BS・110度CSアンテナにも電源を供給できます。
- 土壌汚染・大気汚染など環境に影響を与える物質や人体に悪影響を及ぼす物質を使用しない事、消費電力を削減する事など厳しい自社基準をクリアーした製品です。

※この製品と、ブースター非内蔵タイプのアンテナに10mの同軸ケーブルと外付けブースターを取り付けた場合の性能比較。

安全上のご注意

	△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。 図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。
	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は接触禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は注意して行なってください）が描かれています。

警告

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- アンテナ工事およびテレビ受信関連工事には技術と経験が必要ですので、お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。

- 表示された電源電圧（AC100V 50/60Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この製品に接続する同軸ケーブルには、テレビ電波以外に電流が流れることがあります。電源コードや同軸ケーブルなどを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、（熱器具に近づけたり）引っぱったりしないでください。火災・感電の原因となります。電源コード、同軸ケーブルなどが傷んだときは（心線の露出、断線など）お買い上げの販売店もしくは工事店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電などの原因となります。

- 次のような場所には設置しないでください。

  ＜アンテナ＞

  ・送配電線、ネオンサイン、電車の架線や電話線などの近く
  　アンテナが倒れた場合、感電、断線の原因となります。

  ・人や車両の通行の妨げになる場所
  　人がぶつかったり、車両が接触してけがや破損の原因となります。

  ・地盤の弱い場所、強度の弱い場所、不安定な場所、ぐらついたり振動する場所や傾いた場所
  　落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

  ・煙突の付近や高温になる場所
  　火災の原因となります。

  ＜電源部＞

  ・屋外、風呂場や洗い場など水がかかる場所や水などの入った容器の近く
  　電源部は屋内専用です。火災・感電の原因となります。

  ・直射日光の当たる場所や調理台、加湿器のそばなど高温になる場所、油煙や湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所
  　火災や破損の原因となります。

  ・強度の弱い場所、不安定な場所、ぐらついたり振動する場所や傾いた場所
  　落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

- 設置やお手入れ、点検をする際には、次のことにご注意ください。

  ・高所などでは、足場と安全を確保し、作業時は手袋をするなど安全対策をして行なってください。
  　落ちたり、すべったりしてけがの原因となります。

  ・組み立てや取り付けのネジやボルトは、締め付け力（トルク）に指定がある場合はその力（トルク）で締め付け、堅固に固定してください。
  　落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

  ・風の強い日や雨、雪、霧などの天候が悪い日や暗い所では、危険ですから設置工事やお手入れ、点検をしないでください。
  　落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

  ・アンテナの部品や工具類を高い所から落とさないでください。
  　けがの原因となります。

  ・アンテナや電源部のケースを開けたり、分解して内部に触れないでください。
  　感電やけがの原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店もしくは工事店にご依頼ください。

  ・万一、電源部の内部に水などが入った場合や煙が出たり、変な臭いがする場合は、すぐにこの電源部の電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店もしくは工事店にご連絡ください。
  　そのまま使用すると火災や感電の原因となります。煙や臭いがなくなるのを確認して販売店もしくは工事店に修理をご依頼ください。

- 雷が鳴り出したら、アンテナやケーブルには触れないでください。
  感電の原因となります。

⚠ 警告

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

● 電源部の取り扱いについて、次のことに注意してください。
- ・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
  電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- ・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
  感電の原因となることがあります。
- ・電源部の上や周囲にろうそく灯など炎が発生しているものを置かないでください。
  倒れたりして火災の原因となります。
- ・電源部にテーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置かないでください。
  内部に熱がこもり、火災の原因となります。

⚠ 注意

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

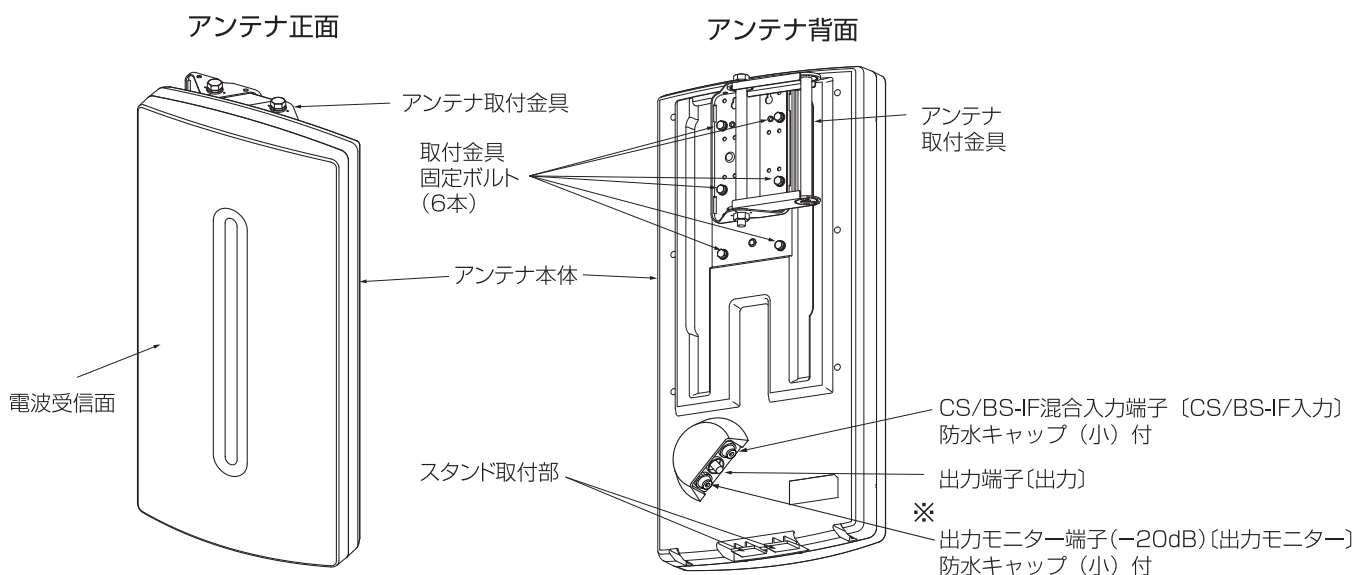
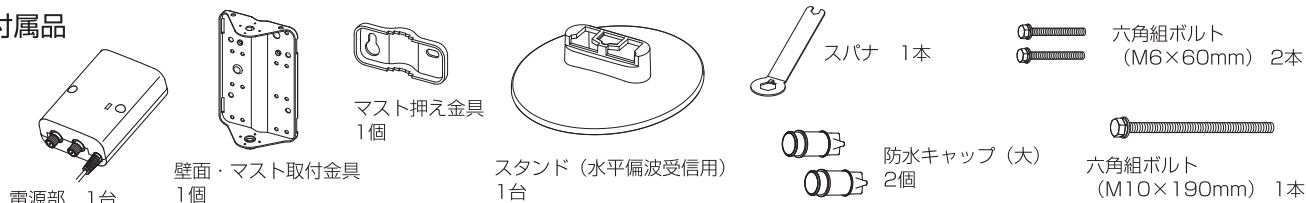
● 台風の後や積雪の後などは、アンテナや取付装置に緩みや異常が生じることがあります。そのままにすると破損したりして、けがや故障の原因となることがあります。点検はお買い上げの販売店または工事店にご依頼ください。

● アンテナや取付装置などに洗濯物や他の物品を掛けたりしないでください。
電源部の上に乗らないでください。
倒れたり、破損したりして、けがの原因となることがあります。

● マンションやアパートなどによっては、取り付けに規制のあるところがあります。管理組合、管理事務所、自治会などに必ずご確認のうえ、取り付けてください。

お取扱いの前に

- 組み立て、取付作業は、この取扱説明書をよくお読みのうえ行なってください。
- 強風の時や、雨や雪など天候の悪いときは危険ですから、取付作業は行わないでください。
- アンテナを落としたり、ぶつけたり、無理な力を加えることのないよう注意してください。
- 壁面やマスト、ベランダ等に取り付ける場合、設置場所の強度に注意し、また長期にわたり台風などの強風に耐えるよう指定のトルクがある場合、指定のトルクで固定し、落下、転倒しないよう安全性と信頼性を十分に考慮してください。
- 付属の電源部はこの製品専用です。他の機器には使用しないでください。

各部の名称

※出力モニター端子は測定専用の端子です。測定以外の用途では使用しないでください。

使用例

アンテナの設置作業をはじめる前に、受信する電波の到来（送信所）方向を確認して、受信できる設置場所をお選びください。
この製品には必ず電源の供給が必要です。電源部とアンテナの間に分配器等の機器が入る場合はその機器が通電形であることをご確認ください。

- BS・110度CSアンテナを設置し混合伝送する場合は、CS/BS-IF混合入力端子に同軸ケーブル（別売）で接続します。スカパー！HDは混合伝送できません。
- 出力モニター端子に同軸ケーブルでレベルチェッカーに接続すると、実際の受信レベルより約20dB低い値でモニター出力されます。
- レベルチェッカーを使用しない場合は、テレビのアンテナ設定等でアンテナレベルを確認してください。

※各端子には必ず防水キャップを確実に取り付けてください。
雨水が入ると故障の原因となります。
モニター端子とCS/BS-IF混合入力端子にはあらかじめ防水キャップ(小)が付いています。

背面
F形接栓(市販品)
②CS/BS-IF
混合入力端子へ
③
出力モニター
端子へ
防水キャップ(大)
(付属品)
レベル
チェッカー
①出力端子へ
アンテナの
電波受信面
電波到来方向
（受信方向）
送信所
受信レベルが最大になる
ように左右に方向を調整
BS·110度
CSアンテナ
(別売)
DC+15V
同軸ケーブル(別売)

※BS·110度CSアンテナを設置する場合にも付属の電源部から電源を供給することができます。

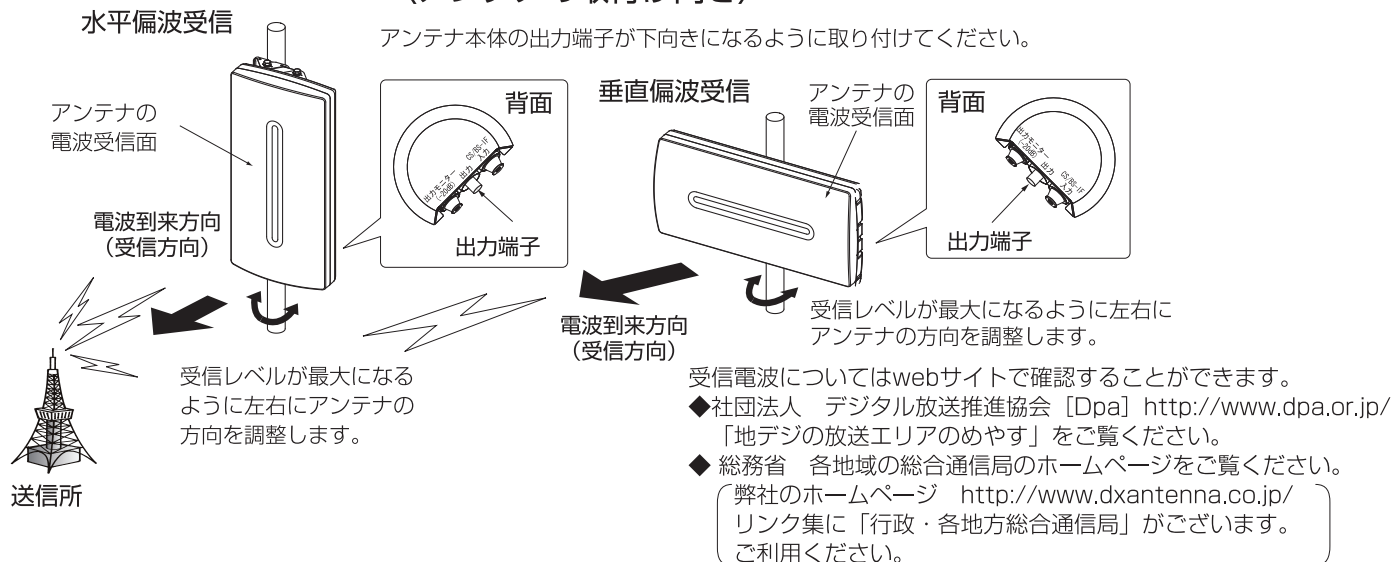
同軸ケーブル(別売)
DC+15V
分配器
(別売)
(注1)
通電端子
通電端子
電源部
(付属品)
(注3)
AC100V
地上·BS·110度
CSデジタル放送
対応テレビ(別売)
(注2)
アンテナ
(ブースター)へ
テレビへ
(注4)
同軸ケーブル(別売)
DC+15V
同軸ケーブル
(別売)
CS/BS-IF、UHF分波器(別売)

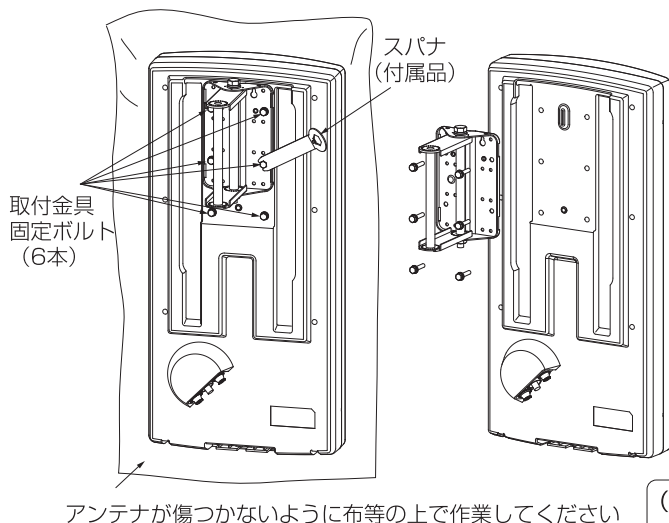
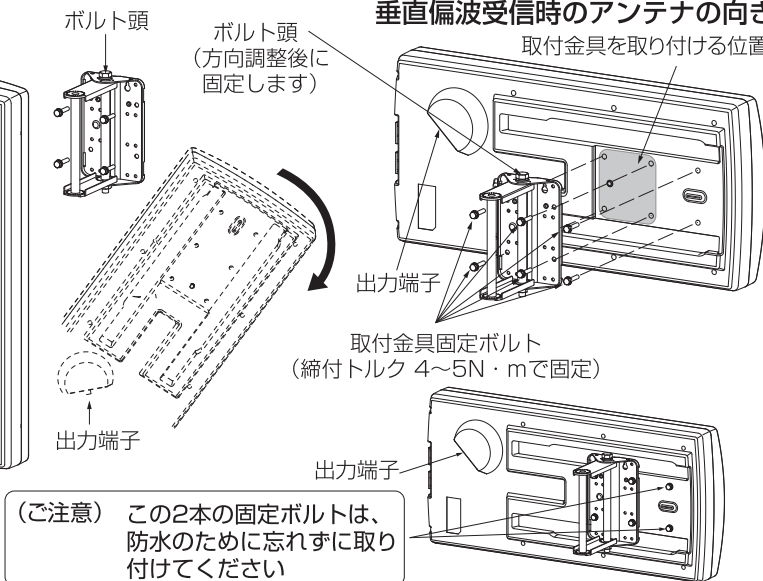
(注1)分配器をお使いの場合は必ず通電端子に接続してください。
(注2)テレビのCS/BSコンバーター用電源の供給機能を「切」または、「OFF」にしてください。
(注3)旅行などで長期間テレビを見ないときは、電源部のプラグをAC100Vコンセントから抜いてください。
(注4)衛星放送をご利用の場合は、電源部とテレビの間にCS/BS-IF、UHF分波器が必要です。
(注5)接続する機器の使用方法については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

受信偏波とアンテナの取付け向き

①受信する電波の到来方向（地上デジタル放送の送信所の位置）と電波が水平偏波か垂直偏波か偏波面を確認します。
お買い求めの販売店にお問い合わせください。下記Webサイトでも確認することができます。
②電波の偏波面に合わせてアンテナの取付向きを変えます。（出荷時、取付金具は水平偏波受信用となっています）
4ページの「アンテナの取付け向きをかえる（アンテナ取付金具の取はずしと取付け）」を参照してください。

〈アンテナの取付け向き〉

受信電波についてはwebサイトで確認することができます。
◆社団法人　デジタル放送推進協会［Dpa］http://www.dpa.or.jp/
「地デジの放送エリアのめやす」をご覧ください。
◆ 総務省　各地域の総合通信局のホームページをご覧ください。
弊社のホームページ　http://www.dxantenna.co.jp/
リンク集に「行政・各地方総合通信局」がございます。
ご利用ください。

アンテナの取付向きをかえる（アンテナ側取付金具の取はずしと取付け）

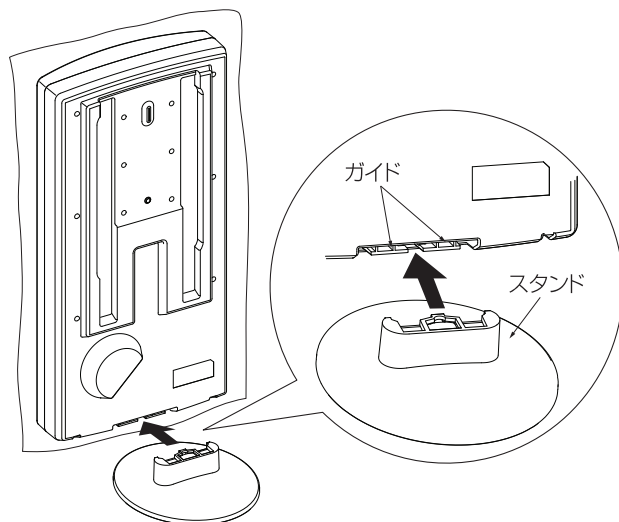
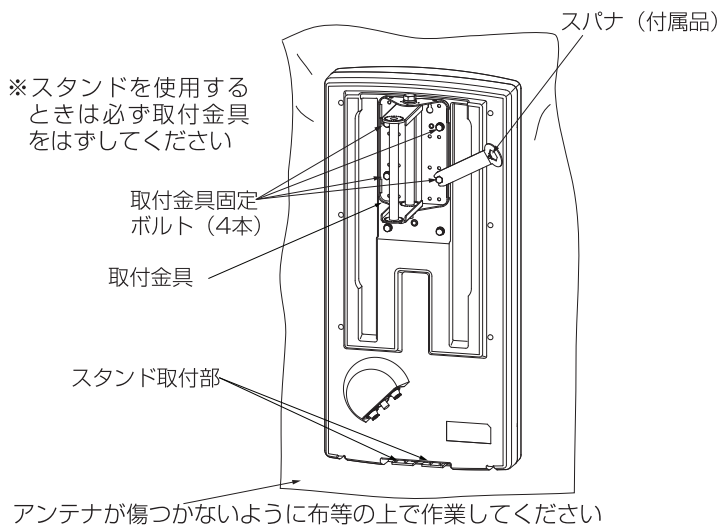
①アンテナ本体背面の取付金具固定ボルト6本を付属のスパナを用いてゆるめ、取付金具を取りはずします。

②アンテナ本体の向きを90度回転させてから、はずした取付金具を付け直します。このとき、取付金具のボルト頭が上側に出力端子が下側になるように取り付けてください。

アンテナの取付方法

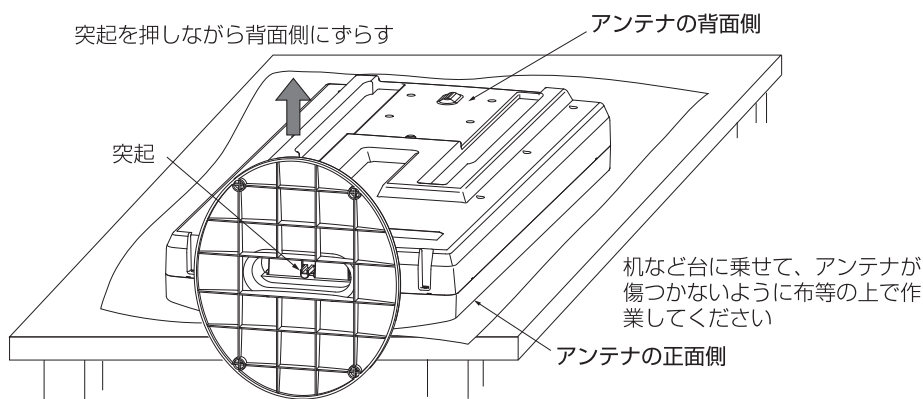
平面アンテナの設置作業を始める前に、受信する電波の到来方向を確認して、受信できる設置場所をお選びください。

屋 内 設 置

〈スタンドの取付け〉

①取付金具固定ボルト4本を付属のスパナでゆるめて、取付金具全体を取りはずしてください。（取付金具とボルト、スパナは保管しておいてください。）

②アンテナ底面のスタンド取付部のガイドに沿うように、スタンドをアンテナの背面側からはめ込みます。スタンドのストッパーがカチッとはまるまで奥に入れてください。

〈スタンドの取りはずし〉

スタンド底面の突起をアンテナ側に押しながら、スタンドをアンテナ背面側にずらすとストッパーがはずれます。

転倒防止のために

次のような所に設置してください。
- 水平な場所
- 設置面が堅く、安定した場所
- 振動がない場所

◆カーペット、敷布の上など設置面が軟らかい、不安定な所や万一地震等で倒れたときにけがする恐れのある就寝場所の近くなどに設置しないでください。

◆この製品の上に物を置かないでください。

アンテナの取付方法のつづき

屋外設置

平面アンテナの設置作業を始めるまえに、受信する電波の到来方向を確認して、受信できる設置場所をお選びください。

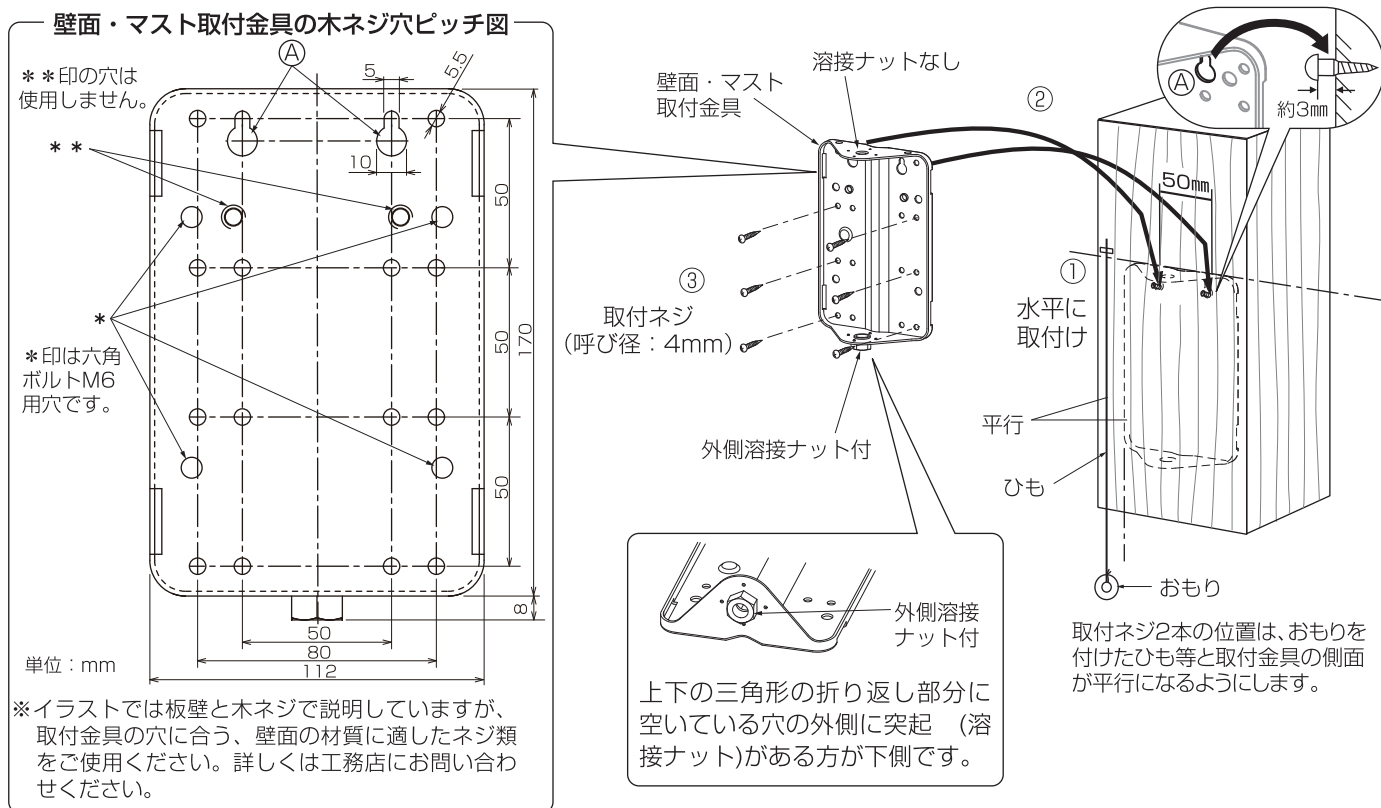
手順 1 はじめに、付属の壁面・マスト取付金具を固定し、その後アンテナ本体を取り付けます。

〈壁面に取り付ける場合〉

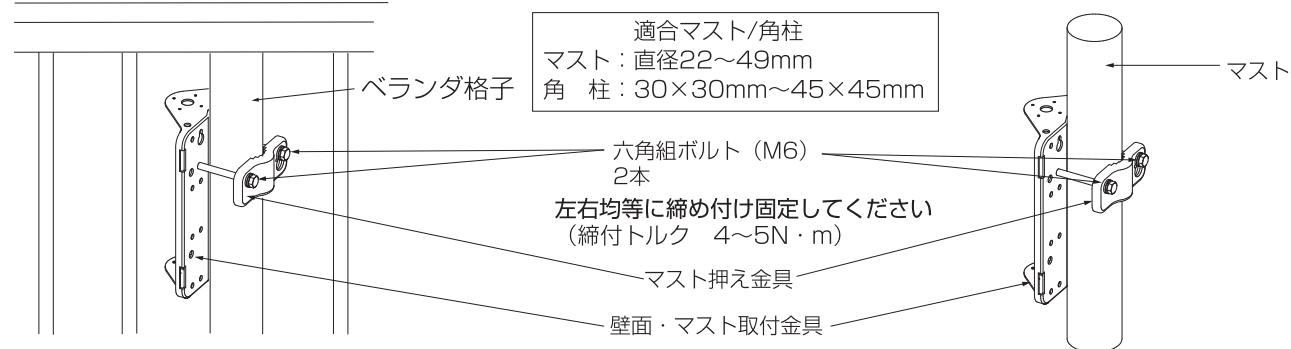
①市販の木ネジなど2本をネジ頭が3mm程度出た状態に取り付けます。
（注）十分な強度のある壁面に、木ネジを水平に取り付けてください。
②木ネジに付属の壁面・マスト取付金具(Ⓐ の穴)を引っ掛け、市販の水準器やおもりを付けたひも等を目安に、壁面・マスト取付金具が水平になるように角度を調整し、木ネジを締め付けます。
（注）アンテナ本体取付後はアンテナの傾き補正ができないため、この時に慎重に角度を調整してください。
③壁面・マスト取付金具を木ネジなどで上下左右均等に6か所以上、壁面にしっかりと固定します。

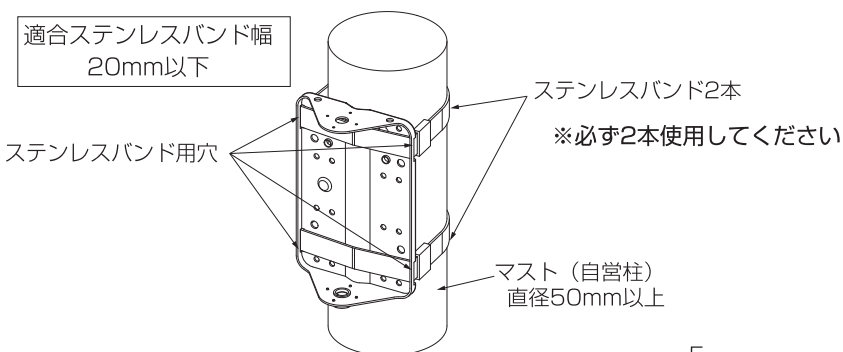
※イラストでは板壁と木ネジで説明していますが、取付金具の穴に合う、壁面の材質に適したネジ類をご使用ください。詳しくは工務店にお問い合わせください。

上下の三角形の折り返し部分に空いている穴の外側に突起（溶接ナット)がある方が下側です。

取付ネジ2本の位置は、おもりを付けたひも等と取付金具の側面が平行になるようにします。

〈ベランダ格子に取り付ける場合〉

〈マスト／角柱に取り付ける場合〉

適合マスト/角柱
マスト：直径22～49mm
角　柱：30×30mm～45×45mm

〈市販のステンレスバンドで取り付ける場合〉

適合ステンレスバンド幅
20mm以下

- 屋外使用では、設置場所に固定するため、取付時に壁面などに穴が開いたり、ベランダや柱にきずがつきます。アンテナ取付前に設置したい場所で地上デジタル放送が全チャンネル受信できることをテレビなどで確認してください。

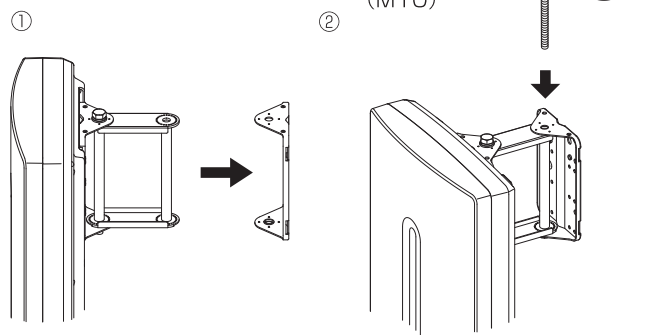
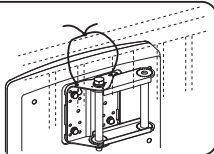
アンテナの取付方法のつづき

手順2　固定した壁面・マスト取付金具にアンテナ本体を取り付けます。

〈アンテナ本体を壁面・マスト取付金具へ取り付ける方法〉

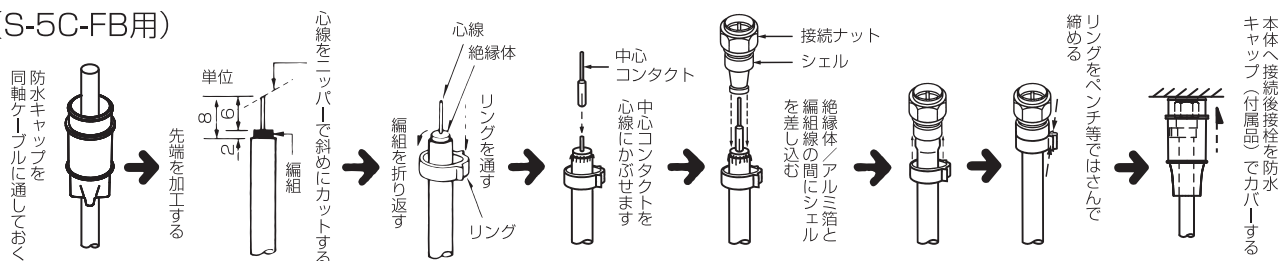
①固定した壁面・マスト取付金具の上下穴に、アンテナ側の取付金具の上下穴を合せます。両方の金具が平行になるようにアンテナ側取付金具を差し込みます。
②下側の穴どうしがはまったところで、六角組ボルト（M10）を上側の穴から通して付属のスパナで仮止めします。

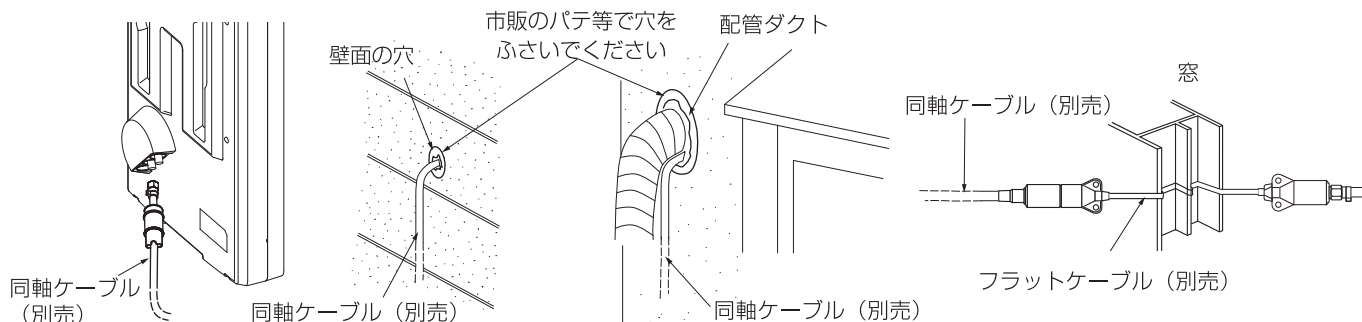
垂直偏波受信のときも同様に取り付けます

（ご注意）
落下防止のため固定用ロープ（市販品）を使用して作業してください。

防水キャップ（付属品）使用時の同軸ケーブルと接栓の接続方法

〈F-5SN接栓（別売）への同軸ケーブル（別売）の接続方法〉

5C相当同軸ケーブルにF-5SN接栓（5C同軸ケーブル用接栓）を取り付ける場合の加工例です。

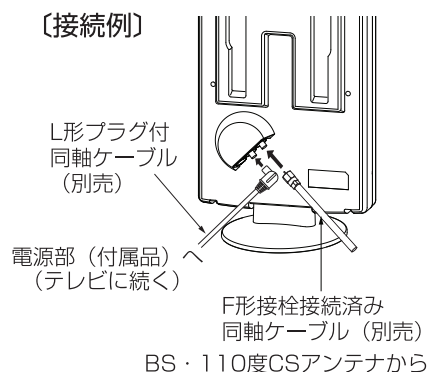
（S-5C-FB用）

- 接栓は使用する同軸ケーブルに適したF形接栓をご使用ください。
- 同軸ケーブルの先端を加工する場合、心線・編組に傷をつけたり、指定された加工以外の加工をすると断線やショート、機器の破損の原因になりますのでご注意ください。また心線と編組は、絶対に接触しないようご注意ください。
- 設置した後で抜けたりしないように、同軸ケーブルのリングはしっかりと締めてください。
- 接栓を取り付けた同軸ケーブルの心線は、曲がっていないかを確認し、曲げないように接続してください。
  （接栓締付トルク　2N・m）

屋内へのケーブルの引込方法

アンテナ本体への同軸ケーブル（別売）の接続方法

〈屋内で使用する場合〉

- 屋内で使用する場合は、防水キャップ（付属品）を使用する必要はありません。
- 別売のプラグ付同軸ケーブル等（F形接栓加工済のもの）を使用して、アンテナ本体の出力端子「出力」と付属の電源部（それに続く地上・BS・110度CSデジタル放送対応テレビ）とをしっかり確実に接続してください。
- BS・110度CSアンテナと接続する同軸ケーブルは、CS/BS-IF混合入力端子「CS/BS-IF入力」に接続します。（F形接栓使用時の締付トルク　2N・m）

（注）
- 接続後は、引っ掛けないように同軸ケーブルの引き回しに注意して配線処理をしてください。
- 差込式プラグの場合、長期間使用すると自然に抜け落ちることがありますので、時々接続状態をたしかめてください。

〔接続例〕

アンテナ本体への同軸ケーブル（別売）の接続方法のつづき

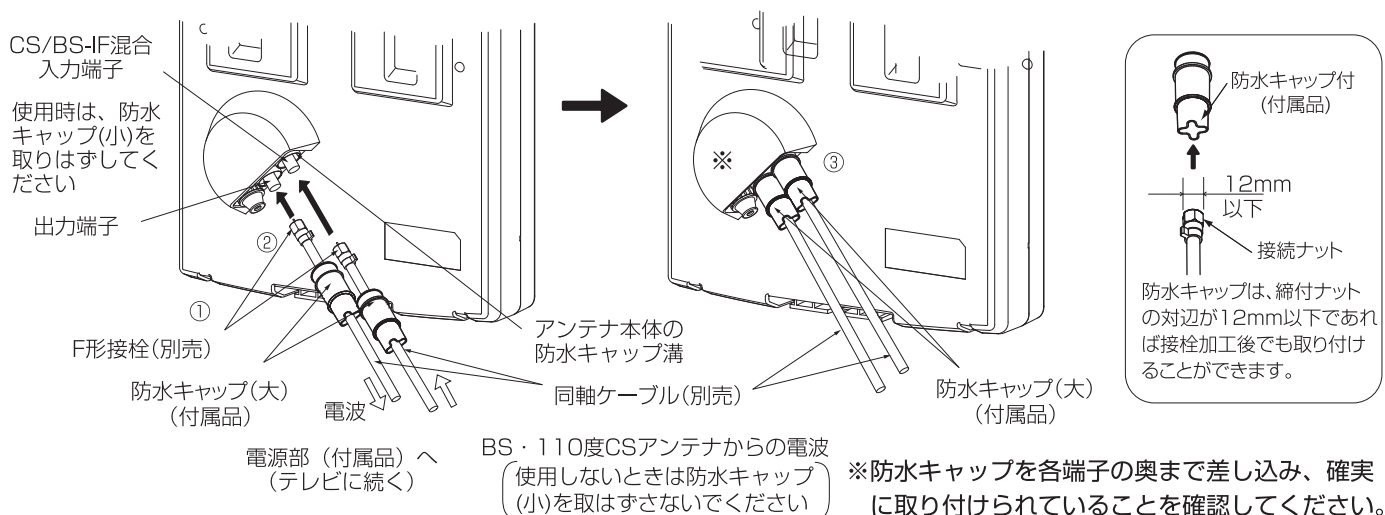
〈屋外で使用する場合〉

- 同軸ケーブルはできるだけ4Cまたは5Cケーブルのご使用をお勧めいたします。接栓は同軸ケーブルに合わせた製品を別途お買い求めください。

①防水キャップ（付属品）は、接栓取付後の同軸ケーブルに通すことができます。その際は、接栓の先端（心線）が傷つかないように注意してください。接栓の先端保護のために、接栓取付加工前にケーブルに通しておくことをお勧めします。
（周囲が低温時等、ケーブルを通しにくい場合は強く押し込んでください）

②同軸ケーブル先端にF形接栓を取り付けた後、付属の電源部（それに続く地上・BS・110度CSデジタル放送対応テレビ）へ接続する同軸ケーブルはアンテナ本体背面の出力端子「出力」に、BS・110度CSアンテナと接続する同軸ケーブルは防水キャップ（小）をはずしたCS/BS-IF混合入力端子「CS/BS-IF入力」にしっかりと確実に接続してください。
（接栓締付トルク　2N・m）

③F形接栓をアンテナ本体に接続した後、防水キャップ（付属品）をアンテナ本体の防水キャップ溝の奥まで確実に差し込んで接栓部を雨水などからカバーしてください。雨水が入ると故障の原因となります。

※防水キャップを各端子の奥まで差し込み、確実に取り付けられていることを確認してください。

電源部の設置と同軸ケーブル（別売）の接続方法

〈電源部の板壁への取付〉

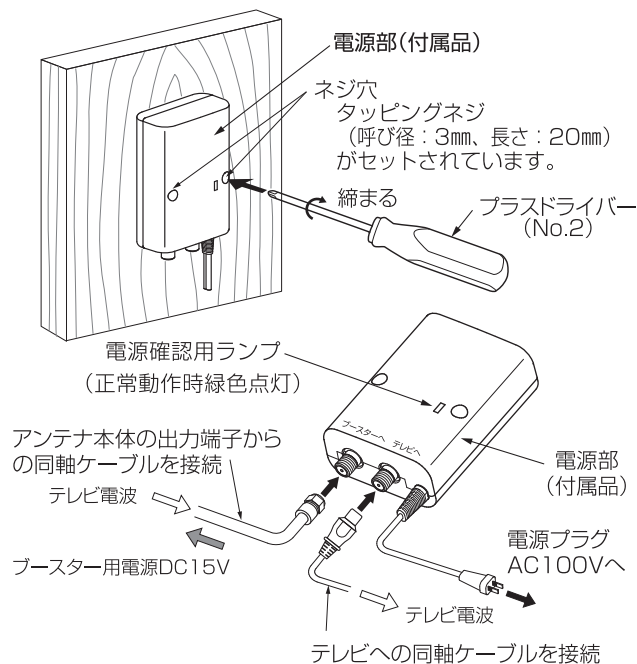
- 電源部を柱または板壁に取り付けることができます。
ネジ穴の中のネジをプラスドライバーで締め付け固定してください。

〈電源部と同軸ケーブルの接続〉

- 同軸ケーブルでアンテナと電源部の「ブースターへ」、テレビと電源部の「テレビへ」を接続してください。
（ブースターはアンテナに内蔵しています）
- 電源プラグをAC100Vコンセントに接続すると電源がONとなり、電源確認用ランプが緑色に点灯します。必ず電源確認用ランプの点灯を確認してください。

※ブースターはアンテナに内蔵しています。

〈ご注意〉

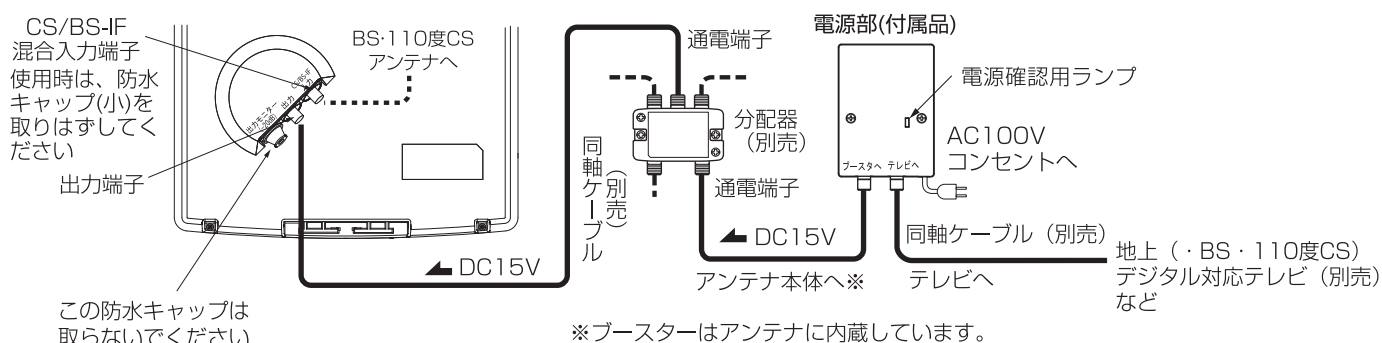
- この電源部には電源スイッチはありません。万一、煙が出るなど異常が生じたら、ただちに電源プラグを抜いてください。
- アンテナやテレビへのケーブルを接続後、電源プラグをAC100Vコンセントに差し込み電源をONしても、電源確認用ランプが緑色に点灯しない場合、F形接栓加工不良などによるショートの可能性があります。ただちに電源プラグを抜き、接続を確認してください。
- この電源部は、平面アンテナ専用の屋内仕様の付属品です。
この製品以外に使用したり、屋外に設置しないでください。

この電源部からは、BS・110度CSアンテナ用に電源を供給できます。
接続しているテレビのアンテナ設定では「アンテナ電源を供給しない」にしてください。

受信レベルとアンテナ方向の調整方法

平面アンテナの方向は、実際に電波を受信して、レベルチェッカーまたは地上（・BS・110度CS）デジタル放送対応テレビやのアンテナ設定等を確認しながら、C/N値や受信レベルが最大になるように調整します。

- アンテナの出力端子は同軸ケーブル（別売）で、電源部とテレビの入力端子をそれぞれ接続してください。
- BS・110度CSアンテナを設置し混合伝送する場合は、アンテナのCS/BS-IF混合入力端子に同軸ケーブル（別売）で接続してください。
- レベルチェッカーを使用する場合は、アンテナ本体の出力モニター端子に接続してください。

〈地上（・BS・110度CS）デジタル放送対応テレビを使用する場合〉

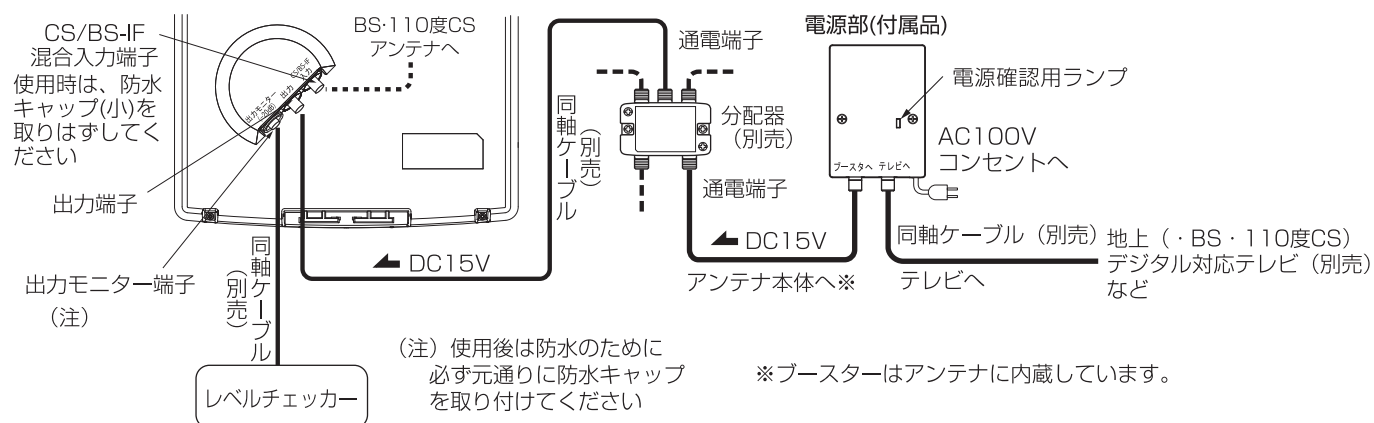
①アンテナの出力端子と付属の電源部、地上（・BS・110度CS）デジタル放送対応テレビを同軸ケーブル（別売）で接続します。アンテナと電源部の間に分配器などを使用する場合は、必ず電源部は使用機器の通電端子に接続してください。このとき、電源部の電源プラグはまだコンセントに差し込まないでください。

②BS・110度CSアンテナを設置するときは、防水キャップ（小）を取はずしたCS/BS-IF混合入力端子に、防水キャップ（大）を付けた同軸ケーブルで接続します。

③接続完了後に、電源部の電源プラグをAC100Vコンセントに差し込み、電源確認用ランプの緑色点灯を確認します。

④テレビ画面にアンテナ設定等を表示し、アンテナレベルを確認しながら数値が最大となるようにアンテナの方向を調整します。（9ページ参照）

※各端子には、必ず防水キャップをしっかりと奥まで差し込んでください。雨水が入ると故障の原因となります。

〈レベルチェッカーを使用する場合〉

①アンテナの出力端子と付属の電源部、地上（・BS・110度CS）デジタル放送対応テレビを同軸ケーブル（別売）で接続します。アンテナと電源部の間に分配器などを使用する場合は、必ず電源部は使用機器の通電端子に接続してください。このとき、電源部の電源プラグはまだコンセントに差し込まないでください。

②BS・110度CSアンテナを設置するときは、防水キャップ（小）を取はずしたCS/BS-IF混合入力端子に、防水キャップ（大）を付けた同軸ケーブルを接続します。

③アンテナ本体の出力モニター端子に付いている防水キャップを取りはずし、同軸ケーブル（別売）でレベルチェッカー等を接続します。

④接続完了後に電源部の電源プラグをAC100Vコンセントに差し込み（電源確認用ランプが緑色点灯）、レベルチェッカーでC/N値や受信レベルを測定します。

出力モニター端子は実際の受信レベルより約20dB低い値を出力します。（UHF帯、CS/BS-IF帯）
また、C/N値も実際の値より悪く表示されることがありますが、最大値になるように調整してください。

⑤C/N値や受信レベルが最大となるようにアンテナの方向を調整します。（9ページ参照）

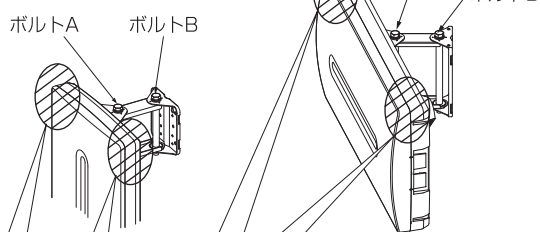
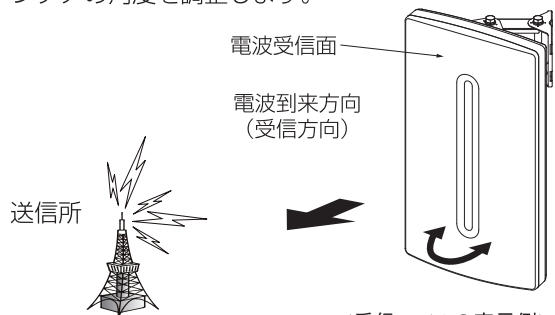
⑥アンテナの方向調整が終了すると、レベルチェッカーを取りはずします。**アンテナ本体の出力モニター端子には防水キャップ（小）をしっかりと奥まで取り付けてください。出力モニター端子は測定用の端子です。測定以外の用途では使用しないでください。**

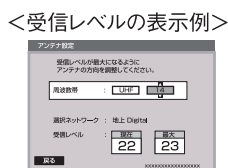
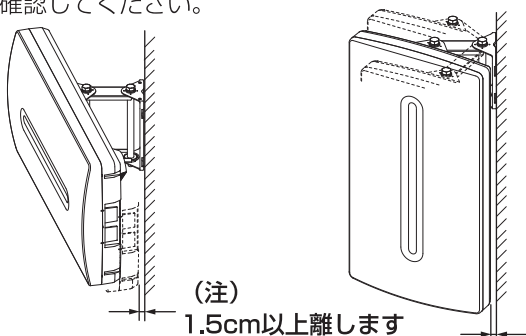
※各端子には、必ず防水キャップをしっかりと奥まで差し込んでください。雨水が入ると故障の原因となります。

アンテナの方向調整

アンテナの方向調整は、実際に電波を受信して行いますので、一度仮にアンテナと地上（・BS・110度CS）デジタル放送対応テレビを接続してください。テレビのアンテナ設定等を確認しながら、受信レベルが最大になるように平面アンテナの方向を調整します。レベルチェッカーなどの測定器を用いてアンテナの方向調整をする場合は、測定器を同軸ケーブルでアンテナのモニター端子「モニター」に接続します。

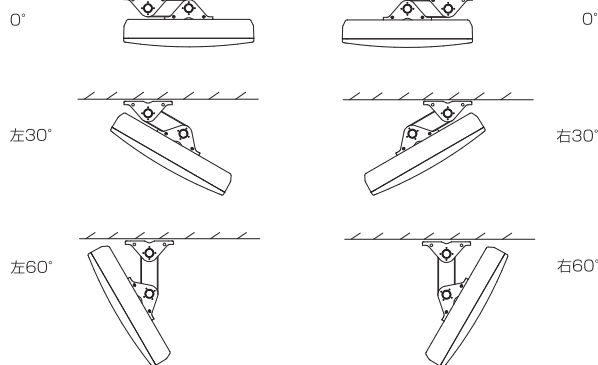
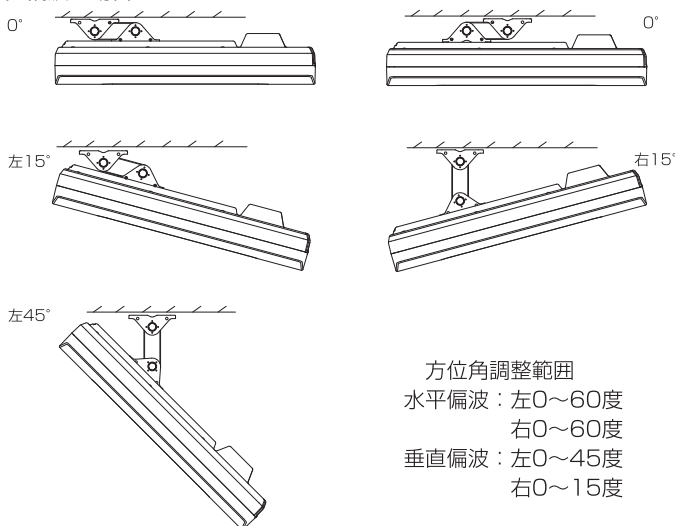
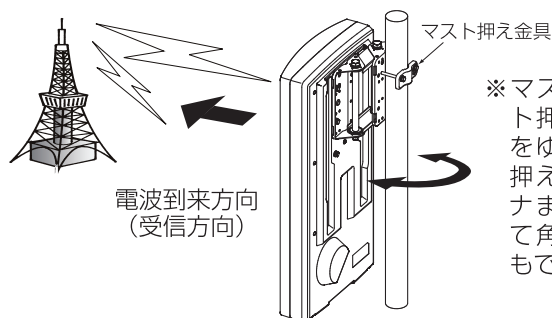
〈屋外設置の場合〉

①ボルトA、Bをゆるめます。

②「取付金具の位置図」を参考にして、平面アンテナを左右に動かし、受信レベルが最大になるようにアンテナの角度を調整します。

<受信レベルの表示例>

※受信レベルの表示は、ご使用のテレビの取扱説明書「アンテナ設定」などの項目をご覧ください。

③アンテナ側面が壁面から1.5cm以上離れていることを確認してください。

④ボルトA・Bをしっかりと強固に固定します。

六角組ボルト（M10）締付トルク　9～10N・m

取付金具の位置図

アンテナと取付金具を図のような角度で固定することで、アンテナをより安定させ、壁面からの突出が少ない省スペース設置ができます。

※マスト取付時はマスト押え金具のボルトをゆるめて、マスト押え金具からアンテナまでの全体を回して角度調整することもできます。

〈屋内設置の場合〉

- 屋内で使用する場合は、スタンドを利用して良好な受信ができるようにアンテナの方向を調整します。

窓際などでアンテナの向きをいろいろかえながら最も良く受信できるアンテナの向きを探してください。
屋内に設置して良好な受信ができない場合は、ベランダなどの屋外に設置することをお勧めします。

アンテナの方向調整のつづき

〈こんなときは〉

平面アンテナの方向は、実際に電波を受信して、レベルチェッカーまたは地上（・BS・110度CS）デジタル放送対応テレビのアンテナ設定等を確認しながら、受信レベルが最大になるように調整します。レベルチェッカーやテレビのアンテナ設定のレベル値に異常がある場合は、次のことをお確かめください。
受信レベルは60〜90dBμV（モニター値：40〜70dBμV）が目安です。アンテナレベルの目安はご使用の地上（・BS・110度CS）デジタル放送対応テレビの取扱説明書をご覧ください。

症　状	チェック項目	対　策
レベルチェッカーやテレビのアンテナ設定で､レベルが表示されない	電源部（付属品）の電源確認用ランプが緑色に点灯していますか？	電源部のプラグをAC100Vコンセントに差し込んでください。 アンテナやテレビへのケーブルを接続後、電源プラグをAC100Vコンセントに差し込み電源をONにしても、電源確認用ランプが緑色に点灯しない場合、F形接栓加工不良などによるショートの可能性があります。 ただちに電源プラグを抜き、接続を確認してください。
	電源部の同軸ケーブル接続は正しいですか？	アンテナ本体側の同軸ケーブルは「ブースターへ」に、テレビ側の同軸ケーブルは「テレビへ」に接続してください。
	アンテナと電源部の間に接続されている機器は通電仕様ですか？ または電源部は通電端子に接続されていますか？	通電仕様の機器に変更する、または通電端子に接続してください。
レベルチェッカーやテレビのアンテナ設定で、レベルが低い テレビ画面にブロックノイズがでる ＜ブロックノイズのテレビ画面＞	付属の電源部（それに続く地上（・BS・110度CS）デジタル放送対応テレビ）へ接続するの同軸ケーブルは、アンテナ本体の出力端子側に接続されていますか？　（間違えてモニター端子側に接続されていませんか？）	電源部とそれに続く地上（・BS・110度CS）デジタル放送対応テレビは、アンテナ背面の「出力」に接続してください。
	電波到来方向にアンテナが向いていますか？	ご購入店でお住まい地域の送信所を問い合せるなど電波到来方向を確認してください。 近隣の建物等に反射した電波を受信できることもありますが、新たな建築物等で電波状況が変化することがあります。
	電波到来方向に障害物がありませんか？	障害物のない状態で受信してください。 障害物を避けられない場合でも、アンテナの高さを50cm〜1mくらい変化させると改善することがあります。アンテナの設置位置を変化させてみてください。
	電波が弱い	電波が弱すぎる場合は受信できません。
レベルチェッカーのレベルがモニター端子で80dBμV以上（出力端子で100dBμV以上）表示されているが、C/N値が悪いまたは受信できない テレビのアンテナ設定で、レベルが高いのに受信状態が悪いまたは受信できない	電波が強い	アンテナの向きを電波到来方向からずらしてください。 （※）

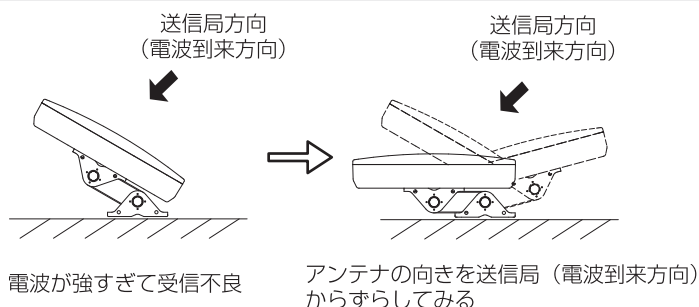
（※）

このアンテナはブースターを内蔵していますので電波が強すぎるとブースターが過入力となり、受信不良になることがあります。
その場合はアンテナの方向を送信局からずらし受信レベルを下げてください。

送信局方向
（電波到来方向）

電波が強すぎて受信不良

送信局方向
（電波到来方向）

アンテナの向きを送信局（電波到来方向）からずらしてみる

使用上のご注意

- 地上デジタル放送を受信するためには、一定以上の受信レベルが必要です。電波の弱い場所や周囲に電波を遮ったり、反射するような障害物のある場所など受信レベルが低い場所では、地上デジタル放送がまったく受信できないかまたは時々ブロックノイズがでるなど不安定な受信状態になることがあります。
- 屋外で設置の場合、アンテナは電波到来方向の障害物をさけるように、できるだけ高い位置に設置してください。（一般的にアンテナの設置位置が高くなるほど受信レベルが良くなります。）
- 屋内で使用していて受信状態が不安定な場合は、アンテナを屋外に設置してください。
- アンテナを設置するとき、ネジ類はスパナなど工具を用いて、しっかりと締め付けてください。
- アンテナはいつも正しい方向に向いているようにご注意ください。
- このアンテナに多量に雪が積もった場合、雪の重みでアンテナが破損する恐れがあります。雪はこまめに払い落としてください。その際、安全には十分注意してください。
- 付属品のスタンドは屋内でのみ使用してください。
- 付属品の電源部を他の製品に使用したり、他の製品の電源部をこの製品に使用しないでください。故障の原因となります。

規格特性

項目	仕様
品名	地上デジタル放送用平面アンテナ
品番	UAD1900
受信周波数(MHz)	470～710(ch.13～52)
偏波面	水平または垂直
インピーダンス（Ω）	75（F形）
標準利得(dB)	アンテナ部：8.2～9.8、総合：22～30
最大出力(dBμV)	90
ブースター部雑音指数 (dB)	1.2
VSWR	3.0以下
前後比(dB)	16以上
半値幅(°)	75以下
耐風速(m/s)	45（注1）
適合マスト径(mm)	マスト：φ22～49、角柱：30×30～45×45 ステンレスバンド（市販品）使用時：φ50以上
方位角調整範囲(°)	±60（水平偏波・壁面取付時）
電源(V/mA)	DC15/30
寸法(mm)	626（H）×303（W）×153（D）（取付金具含む）
質量(kg)	2.8（アンテナ部）、1.3（取付金具）

（注1）耐風速は破壊風速です。

<電源部　PSH09>　JEITA表示による（電源部本体の裏面にも表示しています）

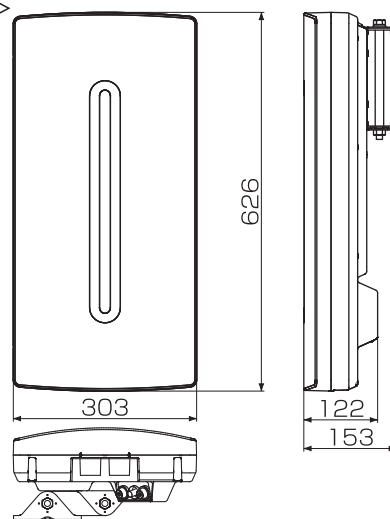
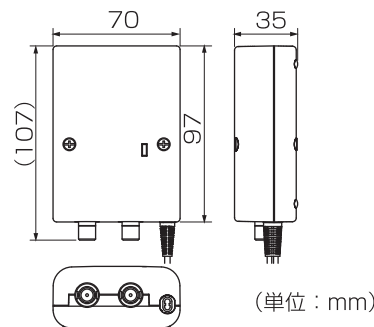
項目	仕様
使用周波数(MHz)	10～2610
電源(V/W)	AC100（50/60Hz）/10
重畳電源(V/mA)	DC15/500
入出力インピーダンス（Ω）	75（F形）
挿入損失(dB)	0～1.2（10～1000MHz）／0～2.0（1000～2610MHz）
使用温度範囲(℃)	−10～+40
外形寸法(mm)	97（H）×70（W）×35（D）
質量(kg)	0.2

規格は改良により、変更させていただくことがありますのであらかじめご了承ください。

外形寸法図

<アンテナ>

<電源部>

（単位：mm）

※この製品を処分するときは、地方自治体のルールに従って処理してください。

保証書

品番

UAD1900

ご販売店	ご住所・ご店名 電話(　　　　)　　　-

お客様	お名前	ふりがな 様
	ご住所	□□□-□□□□　電話(　　　　)　　　-

お買上年月日	保証期間	お買上日から
年　月　日		1　年　間

※本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管ください。

●無料修理規定

1. 本保証書は、お買い上げから下記保証期間内に故障した場合、無料修理規定により、当社が責任をもって無料修理を行なうことをお約束するものです。(ヒューズ、電池、ケーブル、接栓などの消耗部品は除く)したがって、この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
2. 保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明な場合は、お買い求めの販売店、当社カスタマーセンターまたは当社営業所にお問い合せください。なお、商品を直接当社へ送付した場合の送料などはお客さまのご負担とさせていただきます。
また、保証期間経過後の修理についても、お買い求めの販売店、当社カスタマーセンターまたは当社営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。
3. 保証期間中、取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、お買い求めの販売店を通じて無料修理いたしますのでお申しつけください。
4. 次のような場合には保証期間内でも有料修理となります。
①ご使用上の誤り、および不当な修理や改造による故障および損傷。
②お買上げ後の取り付け場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷。
③火災、地震、噴火、洪水・津波などの水害、落雷、その他の天変地異、戦争・暴動による破壊行為、公害、塩害、ガス害、ねずみや昆虫、鳥など動物の行為による損傷、指定以外の使用電源(電圧、周波数)や異常電圧による故障および損傷。
④塗装の色あせなどの経年劣化や、使用に伴う摩擦などにより生じる外観上の現象。
⑤用途以外(例えば車両、船舶への搭載など)に使用された場合の故障および損傷。
⑥本保証書を提示・添付されていない場合。
⑦本保証書にお買上げ年月日、お客様名、お買い求めの販売店の記入のない場合、または字句を書き換えられた場合。
5. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。(This Warranty is valid only in Japan.)
6. 期間中の転居、贈答品、その他の理由によりお買い求めの販売店に修理が依頼できない場合には、当社カスタマーセンターまたは当社営業所にご相談ください。
7. お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

カスタマーセンター　フリーコール　**0120-941-542**　**ホームページアドレス　http://www.dxantenna.co.jp/**

〔受付時間　9：30～12：00/13：00～17：00　土曜・日曜・祝日および夏季・年末年始休暇は除く〕携帯電話・PHS・一部のIP電話で上記番号がご利用になれない場合 **03-4530-8079**

DXアンテナ株式会社

4531-3